

平成27年度

事務事業の点検評価結果報告書

平成28年8月

山県市教育委員会

目 次

第 1 章 点検評価結果の概要

1	趣旨説明	1
2	点検評価の実施について	2
	＜ 評価について ＞	
3	点検評価結果について	
	(1) 点検評価結果全体の概要	3
	(2) 分野ごとの点検評価結果	4
	(3) 事業ごとの評価一覧表	5

第 2 章 各事務事業の点検評価シート

	教育委員会の活動状況	8
	重点目標 1 (主要施策 1～ 4)	9
	重点目標 2 (主要施策 5～ 8)	20
	重点目標 3 (主要施策 9～ 11)	27
	重点目標 4 (主要施策 12～ 15)	35
	重点目標 5 (主要施策 16～ 19)	44
	重点目標 6 (主要施策 20～ 21)	50

第 3 章 外部有識者からの意見

(1)	評価委員からの意見	52
-----	-----------	----

(参考資料)

・	山県市教育委員会点検評価実施要綱	55
・	山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱	57
・	山県市教育委員会点検評価委員	59

第1章 点検評価結果の概要

1 趣旨説明

山県市教育委員会では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成27年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告を行うものです。

なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている教育委員会の職務権限は下記のとおりです。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育委員会の職務権限)

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- (1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- (3) 教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- (5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- (6) 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- (7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- (8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- (9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- (10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- (11) 学校給食に関すること。
- (12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- (13) スポーツに関すること。
- (14) 文化財の保護に関すること。
- (15) ユネスコ活動に関すること。
- (16) 教育に関する法人に関すること。
- (17) 教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- (18) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- (19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の実施について

教育委員会は、「山県市教育委員会点検評価実施要綱」に基づき、平成27年度の教育委員会の事務事業等について、次の内容の点検・評価を実施しました。

(1) 教育委員会の活動状況等

教育委員会会議の実施状況、調査活動の実施等について

(2) 事務の管理及び執行の状況

「山県市の教育基本方針」に示す施策の執行状況及びその成果について

<目標について>

目標について、「・」は「維持向上型事業」に関する目標、「◎」については「積上型事業」に関する目標としました。

※「維持向上型事業」とは、5年間を通し、同じ目標として向上を目指す事業。

※「積上型事業」とは、計画的に毎年度目標を設定し、重点目標の達成を目指す事業。

<評価について>

上記項目について、次の4区分により、その達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

なお、地教行法第26条第2項に規定されている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、「山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱」に基づき、評価委員会を設置し、評定結果に対する意見の聴取を行いました。

3 点検評価結果について

(1) 点検評価結果全体の概要

◇教育委員会の活動状況	
①教育委員会会議の状況	順調に達成している (A)
②調査活動の状況	順調に達成している (A)
◇事務事業の執行状況 (全51項目について評価)	
A 順調に達成しているもの	37 / 51項目 (73%)
B おおむね順調に達成しているもの	14 / 51項目 (27%)
C 達成見込みであるが課題があるもの	0 / 51項目 (0%)
D 順調でないもの	0 / 51項目 (0%)

(2) 分野ごとの点検評価結果

平成27年度の重点施策別の点検評価結果は、下記のようになりました。

重点目標1 (全13項) 「学ぶ意味や喜びを 味わえる学習づくり」	A	順調に達成しているもの	12項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	1項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目
重点目標2 (全9項目) 「児童生徒のよさを 生み出す環境づくり」	A	順調に達成しているもの	7項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	2項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目
重点目標3 (全8項目) 「信頼に満ちた 安心・安全な学校づくり」	A	順調に達成しているもの	7項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	1項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目
重点目標4 (全12項) 「「学び」と「活用」の サイクルの確立」	A	順調に達成しているもの	6項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	6項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目
重点目標5 (全7項) 「ゆとりとやるおいを 実感できる文化芸術活 動」	A	順調に達成しているもの	4項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	3項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目
重点目標6 (全2項) 「人間尊重の精神に あふれた人づくりの推 進」	A	順調に達成しているもの	1項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	1項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0項目
	D	順調でないもの	0項目

(3) 事業ごとの評価一覧表

「山県市教育振興計画」に示された「重点施策」「主要施策」「主要事業」に伴い、平成27年度の「実施事業」の評価を行いました。「実施事業」の評価は、以下のとおりです。

【重点目標1】学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	
主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進	評価
(1) 『分かる授業・心にひびく教育』推進事業	A
(2) 個別指導及び問題解決学習等授業改善事業	B
(3) 学校管理訪問事業	A
(4) 教職員の各種人事交流による学校活性化事業	A
主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実	評価
(1) 学校提案型教育活動推進事業	A
(2) ふるさと大好き、わくわく体験事業	A
(3) 地域とともにある学校の推進事業	A
(4) 学校コラボレーター事業	A
主要施策3 学校間連携事業の充実	評価
(1) 体力づくり・スポーツ振興事業	A
(2) 芸術・文化教育推進事業	A
主要施策4 教育センター機能の充実と改革	評価
(1) 力のある教師や支援員等を育てる教職員研修推進事業	A
(2) 教育センター機能充実事業	A
(3) 教育相談事業の充実事業（適応指導教室コスモス）	A

【重点目標2】児童生徒のよさを生み出す環境づくり	
主要施策5 学校整備の推進	評価
(1) 非・構造部材の耐震対策事業	A
(2) 学校木質化推進事業	A
(3) 学校施設防災機能強化事業	A
主要施策6 学校適正規模化の推進	評価
(1) 方針に基づいた統合推進事業	A
主要施策7 快適な学習環境整備の推進	評価
(1) 冷暖房設備事業	B
(2) トイレ美化推進事業	A
(3) バリアフリー化推進事業	A
主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進	評価
(1) 「学習・情報センター機能をもつ図書館経営」推進事業	B
(2) 学習用ICT整備・活用事業	A

【重点目標3】信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	
主要施策9 学校保健の充実と食育の推進	評価
(1) 学校保健「心と体の健康」(歯と口腔の健康づくり)推進事業	A
(2) 地産地消と食育推進事業	B
(3) 調理場整備推進事業	A
主要施策10 学校サポート体制の充実	評価
(1) 学校支援員等配置事業	A
(2) 教育・生活相談員配置事業	A
主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進	評価
(1) あんしんネットによる登下校等安全対策事業	A
(2) 生徒指導連携強化事業	A
(3) いじめ防止対策推進事業	A

【重点目標4】「学び」と「活用」のサイクルの確立	
主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進	評価
(1) 家族ぐるみの子育て実践事業	A
(2) 放課後子ども総合プラン推進事業	B
主要施策13 青少年健全育成の推進	評価
(1) 青少年健全育成事業	B
(2) 成人式開催事業	A
主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進	評価
(1) 生涯学習関係団体育成・支援事業	B
(2) 公民館活性化事業	B
主要施策15 生涯スポーツの推進	評価
(1) 健康スポーツ推進事業	B
(2) 全国大会等出場応援事業	A
(3) 体育施設管理・建設事業	B
(4) 体育施設指定管理事業	A
(5) スポーツ関係団体育成・支援事業	A
(6) 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A

【重点目標5】「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	
主要施策 16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進	評価
(1) 文化の里花咲きホール活用推進事業	A
(2) 古田紹欽記念館活用推進事業	A
主要施策 17 市民の読書活動の推進	評価
(1) 図書館運営の拡充事業	A
(2) 読み聞かせ教室の開催事業	A
主要施策 18 文化財や伝統芸能等の継承推進	評価
(1) 文化財保存事業	B
主要施策 19 国際理解教育の推進	評価
(1) 青少年の海外派遣事業	B
(2) 国際交流員受入事業	B

【重点目標6】人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	
主要施策 20 学校における人権教育の推進	評価
(1) 学校における人権教育の推進	A
主要施策 21 あらゆる場、あらゆる機会での人権教育の推進	評価
(1) 社会人権教育推進事業	B

第2章 各事務事業の点検評価シート

様式第1号

教育委員会の活動状況

点検評価シート

山県市教育委員会

内容項目	実 績	成果・課題	評価
教育委員会会議の実施状況	<p>○開催回数</p> <p>定例会議 9 回</p> <p>臨時会議 1 回</p> <p>○審議件数</p> <p>議案 38 件</p> <p>専決 1 件</p>	<p>【成果】</p> <p>○議案の審議が厳正に行われた。また、議案以外にも、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況その他の報告に関し、委員と事務局との意見交換が活発に行われた。</p> <p>【課題】</p> <p>●会議の毎月開催に努め、教育委員会の円滑な運営及び教育振興計画を推進するため政策会議を開催し、教育委員会の更なる活性化を図る。</p>	A
調査活動の状況等	<p>○視察調査</p> <p>・市内視察 学校訪問（桜尾小学校）</p> <p>・市外視察 岐阜県教育委員会連合会研修会（大垣市）</p> <p>○その他</p> <p>協議会 3 回</p> <p>山県市総合教育会議 1 回</p>	<p>【成果】</p> <p>○学校訪問を行い、特色ある教育実践を視察すると共に、学校長等との意見交換により学校の現状把握をすることができた。</p> <p>○教育委員の自己研修の場とし、県下の教育委員会の優れた実践活動の交流をとおして、今後の教育行政の参考とすることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●市民から信頼される教育行政の運営を目指し、各種団体と連携を密にし、意見交換を積極的に行い、教育委員会の更なる活性化を図る。</p>	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(1)『わかる授業・心に響く教育』推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 『山県市立学校3つの実践』(規律、学力、自己有用感)を全ての小・中学校で一貫した共通実践とします。 基礎学力の向上と自己表現力の育成を図ります。 推進校指定や研修校指定による実践的な授業研究会や生徒指導事例研究会を行うことで、「力のある教師」を育てます。 特別支援コーディネーターや教育相談員の適正な配置、就学指導委員会・就学相談会の充実を図り、保育園・幼稚園・特別支援学校との連携を深め、早期からの適切な就学指導を行います。 	<p>学校教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上のための授業改善に力点を置き「規律・自己有用感」の視点で指導・支援が進められた。 就学指導委員会 4回開催 就学相談会 2回開催 特別支援コーディネーター研修会 2回開催 教育相談員研修会 3回開催 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「規律・学力・自己有用感」の3つの教育実践を共通に全小中学校で取り組むとともに、特に基礎基本の定着に力点を置いて指導できた。また、各校では具体的な目標をもって指導をした。 ○基礎学力向上に向けた優れた教育実践の交流がさまざまな会議に重ねて行われた。 ○保育園・幼稚園との連携を強化し、早期からの就学指導を強化できた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後要支援児童生徒が増加することが見込まれるため、特別支援コーディネーターを中心に全校の支援体制に基づく具体的な動きを交流する必要がある。 ●少人数であることを生かす指導法や授業のあり方の工夫を一層進めていきたい。 ●平成32年度から小学校5、6年生で英語が正式な教科になるため、教科としてスムーズに移行できるようにする。 ●児童生徒の基礎学力向上のため、教科書をより有効に利用した研修を行い、市内全教師に広める必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(2) 個別指導及び問題解決学習等 授業改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習等における下位10%の児童生徒に対する個別指導と見届けを徹底し、基礎学力の向上を図るための授業改善を行います。 自ら調べてまとめ発表する学習や仲間と共同して学習すること等、問題解決の力(思考力・判断力・表現力)や方法を身に付けるという目的を明確にした授業への改善を図ります。 小学校高学年における教科担任制や教科免許教員による個別支援等の配置された教職員の割当て内でより質の高い授業を目指します。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学校訪問及び市指定の研究発表会で基礎学力の定着に向けた各校の取り組みについて指導助言をした。 学力向上推進会議2回行い各校の取り組みについて交流した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3つの見届け(実態・学習内容・定着)を意識した授業づくりができた。 ○学習内容を理解しづらい児童生徒への支援を、個別支援やコース別学習等を有効利用する授業が増えた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●単位時間で児童生徒が付けたい力を明確にした授業展開の指導が必要である。 ●教科書をよりよく利用した授業づくりの指導が必要である。 ●小学校高学年や複式学級等において、教科担任制の授業を見すえた教育課程の編成を検討したい。 ●児童生徒の学力向上のため、放課後子ども教室を利用した学習活動(個別指導)を位置づけたい。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(3) 学校管理訪問事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『山県市立学校3つの実践』を小・中学校が一貫して重点化し、具体的な教職員や児童生徒の姿が見られるよう訪問の趣旨徹底を図ります。 ・全教職員の授業や活動を参観し、具体的に助言しながら、個々の教職員の授業力・生徒指導力等の資質向上に努めます。 ・児童生徒に確かな学力を育成するために、教職員がゆとりをもって児童生徒に関わる時間を確保できるよう、事務の効率化を進めます。 ・児童生徒の安全確保や教職員の服務規律の徹底状況について指導助言を行います。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校 年2回訪問 ・全ての学級の授業、職員の様子を参観し、指導助言した。 ・管理職、主任層と懇談を行い、教育活動の推進状況を把握し、学校経営について指導助言した。 ・校長会・教頭会を通して、「危機管理体制の整備」と「教職員の服務規律の徹底」を指導し、管理訪問において見届けをした。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の教育目標や特色のある教育活動と「3つの実践」をつなぎ、個に応じた指導、定着の見届け、よさの価値付けなどを推進できた。 ○各校で「命を守る訓練」や危機管理マニュアルを見直す等実践的な訓練が実施できた。 ○教職員の危機管理意識を高めることができた。また不祥事根絶にむけた適切な指導ができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校の3つの教育実践の成果と課題を広く交流し、山県市としての授業改善の方向や手立てを明確にしていく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(4) 教職員の各種人事交流による学校活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上のために、市内研修校への計画的な人事派遣を推進します。 ・将来を担う中堅的立場の教職員を広域派遣すると共に、他市からも指導力ある教職員を受け入れて、教育活動の活性化を図ります。 ・市内の人事交流を盛んにし、学校の活性化と教職員のキャリアアップを図ります。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・研修校への派遣 岐阜地区実習校へ 1名 ・地域外一般異動 岐阜市へ 2名 ・広域派遣 岐阜市へ 2名 ・地域外一般異動受け入れ 岐阜市より 2名 ・広域派遣受け入れ 岐阜市より 1名 関市より 2名 ・郡市間交流受け入れ 美濃市より 1名 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般異動ルールが変更になり、市内の活性化を図る異動ができた。 ○初任者を5名受け入れ、ベテラン教員と若手教員のバランスを図ることができた。 ○育休中の教諭を2名市内異動して、補充講師の配置について均衡を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒数の減少に伴い教職員の減少が進む中、山県市に本拠地を置く職員や広域人事交流を終えた職員が多いことから、新ルールに基づく一般異動で人事交流を積極的かつ計画的に進めていく必要がある。 ●義務教育9年間を見据えて、小中の人事交流を積極的かつ計画的に進めていく必要がある。 ●人事交流と同時に学校のスリム化を図り、そのことで教職員が明るく元気に勤務できる体制を整えたい。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(1) 学校提案型教育活動推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統産業や地域の自然、市の各種施設を有効に活用し、校区を中心に市域全体から人材を活用する等、『ふるさとに学ぶ提案型体験活動』を一層推進します。 校長の教育ビジョンを明確にし、地域や学校の伝統の上に立った創意あふれる「特色ある教育活動」を推進します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 学校提案型教育活動を全12校で実施した。 環境、農業体験、伝統芸能等多岐にわたる実践で、地域人材の活用が推進された。 学校コラボレーター事業の活用により、地域人材の活用が図られ、地域と学校をつなぐことができた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校や地域の特色を生かした実践を積み上げることができた。 ○学校コラボレーター事業と連携し、地域人材を積極的に活用する中で、より一層ふるさと山県に愛着がもてる活動となった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化、日本の伝統的な文化を学び、継承する機会の一層の充実を図る。 ●ふるさとの自然や歴史・文化を学ぶ「ふるさとに学ぶ提案型体験活動」をさらに意図的に進める必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(2) ふるさと大好き、わくわく体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の創意を活かし、地域の自然や施設を十分活用した魅力あふれる「宿泊体験プログラム」を充実します。 学校、地域、施設等の連携を強化し、体験活動の場や機会の開拓、指導者の確保等、地域住民と共に創る学習活動を推進します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 小学校7校において宿泊体験活動をグリーンプラザみやまコテージにて実施した。 (他2校は天候都合で他の公共施設で実施した) 主な活動としては、登山、野外炊事、キャンドルサービス、化石学習、うどん打ち、クラフト体験、茶摘み・茶もみ体験、座禅体験等を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校コラボレーター事業と連携して地域の指導者の確保ができた。 ○地域の自然や文化に触れながら、仲間と共にやり遂げる喜びを実感することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内の自然や文化に直接触れることが出来る活動内容の開拓と安全面を考慮したボランティアの支援が必要である。 ●体験事業では、野外での活動の楽しさを一層味わえるよう、またその中で危険も学べる工夫をしていきたい。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(3) 地域とともにある学校の推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の様々な教育活動が効果的かつ安全に実施できるよう地域力を活用した学校コラボレーター事業を推進します。 地域とともにある学校にするために、地域教育協議会を発展させ、「学校運営協議会」の設置を推進し、具体的内容や計画、実施における成果と課題等の状況を把握し、指導助言します。 幼保・小中の連携を一層推進するとともに、山県高等学校との交流や連携の在り方を実践的に推進します。 <p>◎保護者や地域住民が学校運営に参画できる制度づくりに取り組みます。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民が学校運営に対し、一体となって取り組めるよう学校運営協議会設置に向けた準備を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「山県市立学校における学校運営協議会設置等に関する規則」を定め施行した。(平成27年11月24日) <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校の特色を活かし、学校と地域全体を結びつける必要がある。 ●各学校のさまざまな実態を知ってもらい、地域の方々を学校経営に参加してもらう必要がある。 ●幼保・小・中・高の一層の連携を進めていきたい。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(4) 学校コラボレーター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校コラボレーター事業の普及活動、広報活動を積極的に行います。 学校コラボレーターの登録者を広く公募するとともに、効果的な活動ができるよう学校コラボレーター会員の定期的な研修会を実施します。 学校コラボレーター会員の行う学習支援活動等を拡大、充実し、効率的に行えるよう地域コーディネーターを中心として計画・調整の体制を確立します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーター情報交換会を実施した。(2～3/回・月) 6月及び11月に学校コラボレーター対象の研修会を開催した。 学校コラボレーター会員の活動により、各学校の学習支援が充実した。 4名の地域コーディネーターが、各学校の要請に応じてコラボ会員を派遣するなど、学校と地域の連絡調整を行った。 学校コラボレーター会員に134名の登録者があった。 活動としては、 <ol style="list-style-type: none"> 学習支援 <ul style="list-style-type: none"> 教科指導 総合学習支援 郊外活動の引率 等 環境支援 <ul style="list-style-type: none"> 清掃・除草作業 図書室整理 等 を行った。 	<p>《成果》</p> <p>○年間822件、延べ3,620名の活動があり、学習支援、環境支援につながった。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校運営協議会の中で、コラボレーター活動をより理解してもらう必要がある。 ●当事業は、学校教育、生涯学習の両方に関わり、他の主要施策と関連させながら、展開していく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	■主要施策3 学校間連携事業の充実 ○全ての学校が参加し、体を鍛え、豊かな心をはぐくみます。	(1)体力づくり・スポーツ振興事業 ・毎年10月に山県市小学生陸上記録大会を実施し、児童の体力や運動能力の向上を目指します。 ・毎年7月に山県市中学校総合体育大会を実施し、技能向上と他校との交流を図り、技能の向上と健全なスポーツ精神を養う機会とします。	学校教育課	・市内全小学校5年生・6年生を対象に10月10日に実施した。 ・7月11・12・19日に7種目において、市中学校体育大会を行った。	≪成果≫ ○陸上記録会は、平成26年度まで参加者が減少傾向にあったが、積極的な啓発活動の結果、平成26年度135名であったが、平成27年度は148名と参加者が増加した。 ○団体競技において、優秀選手賞を表彰することで、勝敗に関わらず活躍した生徒を表彰することができた。	A
		(2)芸術・文化教育推進事業 ・文集「やまびこ」を活用して、表現活動や読書活動等の学習活動を充実するよう各校で工夫します。 ・絵画・書写等の特に優秀な作品は、展示会を開催する等、市民に広く紹介します。 ・市音楽会を開催して、互いの学校の合唱の美しさや取組の素晴らしさを感じとることができるよう交流会の方法を工夫します。	学校教育課	・「やまびこ」にある作文、感想文を参考に、作文指導、読書感想文指導が図られた。 ・11月20日～25日に富波体育館において「こどもの市展」を行った。 ・11月6日に花咲ホールにおいて市内全小学校4年生、中学校2年生が参加して音楽会を行った。	≪成果≫ ○「こどもの市展」では、1,028名の来館者があり、多くの方に鑑賞してもらうことができた。 ○同学年の児童生徒の合唱を聞き合うことで、お互いの学校の合唱の美しさや取組の素晴らしさを感じ取ることができ、以後の取組への意欲化を図ることができた。	

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策4 教育センター機能の充実と改革</p> <p>○各種事業推進のためのセンター機能を強化、効率化を図ります。</p>	<p>(1) 力のある教師や支援員等を育てる教職員研修推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種組織との連携や市内教職員の専門性や特技を活かして、教職員のニーズを満たす研修講座を開設し、教職員の研修意欲や専門性の向上に努めます。 採用から10年までの若手教職員の育成を目的とした研修講座を開設し、教職員としての技能や資質の向上に努めます。 別の支援が必要な児童生徒への効果的な対応ができるよう市費雇用の支援員等の資質・能力の向上に努めます。 幼稚園や保育園と連携したスタートカリキュラム作成を継続し、小学校と幼稚園・保育園が連携して情報交流を行い、就学前後の一貫した指導の充実に努めます。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 経験年数が豊富な教師の力を活かすために、「つなぎ塾講師」「教科等指導員」を委嘱し、ベテランから若手にプロとしての教師の在り方をつなぐ講座を開設した。 主任学習支援員が月1回程度学校訪問の際に、若手教職員や学習支援員の授業参観、指導を行った。 スタートカリキュラム研究会において、小学校1年生スタート時の教育課程を作成した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏期講座として、「つなぎ塾講師」「教科等指導員」による講座を28講座開設し、教職員の資質向上を図ると共に、講師のベテラン力をさらに伸ばすことができた。 ○主任学習支援員の学校訪問を通して、支援員や若手教員と懇談等を行うことで、支援員や若手教員の資質・能力の向上に努めることができた。 ○スタートカリキュラム作成により、初めて1年担任となった教員は、それをもとに指導をすることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作成したスタートカリキュラムを進める中で、カリキュラムを改善していく。 ●退職校長等の人材の活用も考慮する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	■主要施策4 教育センター機能の充実と改革 ○各種事業推進のためのセンター機能を強化、効率化を図ります。	(2) 教育センター機能充実事業 ・児童生徒の優秀な作品の保管場所を確保し、必要に応じて学習活動に利用できるよう工夫します。 ・センター施設や所蔵の備品、センター図書の実を充実を図ります。 ・インターネットを活用して蓄積した教育実践や調査・研究の情報を市内の教職員が積極的に活用する啓発します。	学校 教育課	・開設6年目となり、順調にセンター機能を果たすことができた。 ・センター所蔵の備品を有効に活用するよう広報に努めた。 ・施設の有効利用 市内保育園食育推進事業、スポーツ少年団研修など	≪成果≫ ○教育センターの位置付けが定着し、また学校への支援・連携も充実してきた。 ○センター施設や所蔵の備品を有効に活用する学校等が増えた。 ≪課題≫ ●施設や備品の整備、研修内容を一層充実させる必要がある。	A
		(3) 教育相談機能の充実事業 (適応指導教室コスモス) ・必要に応じてより効果的に生活相談員や教育相談員が対応できるよう配置や事業内容等を見直します。 ・生活相談の実践的な指導法の研修を日常的に実施するとともに、情報を確実に把握して指導に活かします。 ・家庭に課題をもつ児童生徒については、福祉課や子ども相談センター、警察署等と連携し、相談体制の強化に努めます。	学校 教育課	・適応指導教室コスモスと学校との連携により教育相談活動の充実に努めた。 ・年間12回の生活相談員・教育相談員研修会を実施し、情報交換等を行った。	≪成果≫ ○昨年度より、コスモスに来所する不登校児童生徒が減少した。(4人→3人) ○月1回の生活相談員・教育相談員研修会を行うことで、同一歩調で指導を行うことができた。 ≪課題≫ ●複数の児童生徒が通級した場合の相談体制を強化させていく必要がある。 ●センター相談員と福祉課等他課との連携の在り方を考える必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	■主要施策5 学校整備の推進 ○だれもが安心して、だれにも快適な環境としての学校を創ります。	(1) 非構造部材の耐震対策事業 ・「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」に沿って、天井材の落下防止対策及び収納棚等の転倒防止対策を計画的に進めます。 ◎既存耐震対策設備等の維持管理および備品棚等の点検を行います。	学校教育課	・以前に行った非構造部材耐震化の維持管理をした。 また、不適格な収納棚などを撤去し、安全確保に努めた。	≪成果≫ ○既存設備の整備ができた。また、安全確保に努めることで、災害時への準備ができた。 ≪課題≫ ●計画的に非構造部材（収納棚・天井等）の耐震化に取り組んでいく。 ●非構造部材、特に移動する構造物は凶器となる恐れもあるため、固定を強化するなど早急に対応する必要がある。	A
		(2) 学校木質化推進事業 ・施設の大規模改修にあわせ、児童生徒のふれあう場所を中心として、木質化への取組を進めます。また、机・椅子等の更新時には山県市産木材の利用に努めます。 ◎小規模改修や修繕においても木質化取組の検討をします。	学校教育課	・伊自良南小学校の余裕教室1室において、木製間仕切扉及び木製ロッカーを整備することができた。	≪成果≫ ○児童のふれあう場所で、木質化整備することができた。 ≪課題≫ ●学校施設改修事業の計画時に県産材使用を検討し進めていく。 ●地産の美山杉の活用を考慮していく必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策5 学校整備の推進</p> <p>○だれもが安心して、だれにも快適な環境としての学校を創ります。</p>	<p>(3) 学校施設の防災機能強化事業</p> <p>・多目的トイレが未整備の学校体育館トイレを計画的に改修します。また、各学校に防災備蓄倉庫や自家発電設備等を計画的に整備して行きます。</p> <p>◎既存設備の維持管理および屋内運動場多目的トイレにおける未整備校(2校)の整備準備をします。</p>	学校教育課	<p>・以前に整備した多目的トイレの維持管理をした。また、屋内運動場、多目的トイレ未整備校(2校)の整備準備をした。</p>	<p>《成果》</p> <p>○既存設備の整備ができた。また、多目的トイレにおける整備準備ができた。</p> <p>《課題》</p> <p>●学校施設において、必要な改修を計画的に進めていく。</p>	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策6 学校適正規模化の推進</p> <p>○地域の実情や動向をみつめ学校の適正規模化を推進します。</p>	<p>(1) 方針に基づいた統合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校適正規模基本方針及び推進計画に基づき、近い将来複式学級が想定される小規模小学校は、学校統合の準備期間等を考慮し、就学前の早い段階で見定めを行い、保護者や地域住民の意見を聞きながら、複式学級を解消するため学校統合の準備を進めます。 過小規模小学校については、小規模の特性を活かした特色ある教育活動を支援しながら、県費及び市費による非常勤講師を配置し、複式状態を極力解消しつつ、学校統合の必要性を判断していきます。 <p>◎適正規模の見定めと、将来を見据えての計画の見直しをします。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 「山県市小学校及び中学校適正規模推進計画」に基づいて、適正規模の見定めを行い、27年度の取組についてHP等で広く市民に周知した。 今後（H33年度まで）の児童生徒数の一覧表より、今後も過小規模の学校が複数想定されることから、「山県市立小学校及び中学校適正規模推進計画に基づく適正規模の取組について」の見直しを行った。 	<p>《成果》</p> <p>○「山県市小学校及び中学校適正規模基本方針及び推進計画」に基づいて、今後も過小規模の学校が複数想定されることや各学校の地理的条件や教職員配置、地域コミュニティー等、児童生徒に軸足を置き、将来を見据えて計画的に進めていくことを確認し、適正規模の見定めと計画の見直しをするとともに、ホームページ等で広く市民に周知した。</p> <p>《課題》</p> <p>●今後、出生数の減少や転出により、早い段階で複数の小学校では複式学級となる可能性があり、また、中学校でも部活動や教職員配置等の問題がさらに現れてくることが予想される。学校適正規模基本方針及び推進計画に基付いて、複式学級解消のための学校統合に向けた計画的な取組が必要である。</p>	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	■主要施策7 快適な学習環境整備の推進 ○全ての人に優しく、居心地のよい学習環境を整備します。	(1) 冷暖房設備整備事業 ・全普通教室にエアコンの設置を計画的に進めます。 ・老朽化した暖房機器や空調設備については、計画的に更新を図るとともに省エネ等への取組を進めます。 ◎既存設備の維持管理および冷暖空調方式の調査研究を行います。	学校 教育課	・以前に整備した冷暖房設備の維持管理をした。 また、冷暖空調方式に対する資料集めをした。	≪成果≫ ○既存設備の整備ができた。また、冷空調方式について調査研究ができた。 ≪課題≫ ●児童生徒数の動向に注視しながら整備計画を作成し取り組んでいく。	B
		(2) トイレ美化推進事業 ・計画的にトイレを乾式に施設改修を行います。 ・和式便器から洋式便器への移行、併用を進めます。 ・教育面からトイレの清掃美化活動に積極的に取り組みます。 ◎既存設備の維持管理および美化清掃活動推進を行います。	学校 教育課	・以前に整備した乾式、洋式トイレの維持管理をした。 ・全小中学校においてトイレ清掃美化活動を取り組むことができた。	≪成果≫ ○既存設備の整備をした。 ○美化意識を向上することができた。 ≪課題≫ ●学校施設の改修を計画的に進めていく。	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策7 快適な学習環境整備の推進</p> <p>○全ての人に優しく、居心地のよい学習環境を整備します。</p>	<p>(3) バリアフリー化推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある児童生徒の活動範囲における段差を極力解消し、壁面には手すりやスロープを設ける等、障がい者に優しい施設環境の整備を進めます。 未整備の学校は多目的トイレを設置します。 <p>◎既存設備の維持管理および屋内運動場多目的トイレにおける未整備校（2校）の整備準備をします。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 以前に整備した手すりやスロープの維持管理をした。また、屋内運動場、多目的トイレ未整備校（2校）の整備準備をした。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存設備の整備ができた。また、多目的トイレにおける整備準備ができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校施設において、必要な改修を計画的に進めていく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進</p> <p>○全ての児童生徒が読書に親しみ、快適に情報機器を活用できるようにします。</p>	<p>(1)「学習・情報センター機能をもつ図書館経営」推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書活動の充実のため、今後も、全小・中学校に読書指導員を配置し、実践的な研修会を開催します。 学校図書館内の修繕や設備の充実に努め、PTAやボランティアを有効に活用して、学習・情報センター機能をもつ学校図書館を創造します。 図書のバーコード化を推進するとともに各学校や市図書館とのネットワークづくりに努めます。 児童生徒が一人で過ごしたり、年齢の異なる様々な人々との関わりをもったりすることができる「心の居場所」となる場とします。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 全小中学校に読書指導員を配置し、教育センター及び市図書館において年3回の研修会を行った。(小規模校は、2校兼務) 1回目(6/17) 図書館教育の情報交換 2回目(8/5) ブックトークの手法「わくわく図書へのいざない」講話 3回目(2/18) 梅原小学校の取組発表及び情報交換 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館運営の交流会を行うことで、図書紹介の技能を高めることができ、各校の図書館の掲示等の環境が充実した。 読書指導員による積極的な働きかけにより読書をする児童生徒が増加した。 過ごしやすい環境づくりを心がけたことにより、児童生徒の「心の居場所」として充実した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の読書への興味関心や読書率をさらに高め、授業に活かしていく。 図書館利用の効率化、読書の推進を図るため、バーコード化等の管理システムを検討し、導入計画の作成をしていく。 ブックトークの手法を学び、交流することから、児童生徒の自発的な学習意欲の向上を推進していく。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進</p> <p>○全ての児童生徒が読書に親しみ、快適に情報機器を活用できるようにします。</p>	<p>(2) 学習用ICT整備・活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力等を育成するために、最新の視聴覚教材や教育機器を段階的、計画的に整備します。 ・学習課題への興味関心を高めたり、学習内容を分かりやすくしたりするために、授業でのICT活用を推進します。 ・インターネットや携帯電話、スマートフォン等の普及にともなって起こる「ネット上のいじめ」問題に対応するために児童生徒及び教職員に対する情報モラル教育の徹底を図ります。 <p>◎老朽化したICT設備を更新し、ICT機器を適正に運用し、活用できる環境を維持します。</p> <p>◎情報モラル教育の実践交流を実施し、児童生徒の意識の向上を図ります。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した既存サーバー設備を更新した。 ・ファイルサーバーのファイル管理システムを導入した。 ・情報教育研究推進委員会にて、各学校での情報モラル教育の情報交換を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員室校務用サーバーの更新とともにファイル管理システムの導入により、サーバー容量を有効に活用する仕組みを導入できた。 ○情報モラル教育の情報交換を実施することで各学校の現状を把握するとともに、継続的な教育の意識を高めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業に活用できる最新の教育機器購入を計画的に進めていく。 ●パソコン等老朽化する設備を計画的に更新していく。 ●ICT先進導入モデル校を指定し、ICT設備の整備を図り、授業での利活用を推進していく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実 と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(1) 学校保健「心と体の健康」(歯と口腔の健康づくり) 推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と歯科医師会との連携を密にして、専門的立場からの助言を教育活動に活かします。 ・各学校の実情に応じて年間計画を策定し、『心と体の健康』(歯と口腔の健康づくり) を目指した保健教育の充実に努めます。 ・これまでの成果をふまえ、フッ化物洗口の実践と歯肉炎予防における歯科保健教育(ブラッシング指導等)を継続します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校及び山県市学校保健会が、医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携を図り、次の事業を実施した。 ・各種健康診断 ・歯と口腔の健康づくり審査会 ・学校環境衛生活動調査 ・学校保健研究大会の開催 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校と学校医が連携を図り、児童生徒の健康づくりができた。 ○各学校が年間指導計画を基に健康教育に取り組み、実践力を高めることができた。 ○各学校がフッ化物洗口を継続して実践していることから、県内で12歳児1人当たりのむし歯が最も少ない市となっている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康な生活を送ることができる自己管理能力をさらに高めていく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(2) 地産地消と食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校で「いい歯の日」、「食育の日」を設定し、『山県ふるさと食材』を活かす献立を工夫し、その他の食材も地産地消を一層推進します。 ・食育や地場産業の育成等の観点から、市の関係部局と問題を共有しながら食材の安定的な供給を目指します。 ・児童生徒の朝食欠食や孤食等の食生活の改善に向けた食育の充実と家庭への啓発を進めます。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で地産地消を推進し、ふるさとの食材を活かした献立とした。 ・食品数の割合における地場産物使用割合 小中学校 平均23.8% ※山県市総合計画 第5章 第1節 施策2における学校給食の地場産業使用割合に対する数値目標 H31:30.0% ・使用量における地場産物使用割合 小中学校 平均12.3% ・全ての学校の学校保健委員会や給食試食会等で、栄養教諭を中心に食育講話を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとの食材を献立表にのせることで、地産地消の推進状況を周知することができた。 ○いい歯の日・食育の日にちなんだ献立を工夫し、食育推進に努めた。 ○「中学生学校給食選手権」にて、ふるさと給食最優秀賞を受賞した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地産地消の推進をさらに進めるとともに、安全安心な食材の確保に努める。 ●朝食欠食や孤食等の食生活の改善を家庭と一体となって推進する。 ●「中学生学校給食選手権」に全中学校がチャレンジできるよう推進する。 ●産業課等の他課と連携し、年間を通して地域の食材を確保していく体制を検討していく。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(3) 調理場整備推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性と効率性を大切にして、調理場の整備を推進します。 ・ウエットシステムの調理場については、ドライ運用を徹底し、安全管理に努めます。 <p>◎既存設備の維持管理および点検による不適箇所の早期改善に努めます。</p>	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・調理場の衛生面等維持のため、富岡小学校と梅原小学校、伊自良中学校の調理場の修理を実施した。 ・各学校とも衛生管理研究会等の際にドライシステム運用の再確認を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理場の修理により、衛生面と安全面の確保等が図られた。 ○ドライシステム運用の必要性を理解し、安全管理に対する意識が高まった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理場の機器の老朽化が進んでおり、順次対応していく必要がある。 	A

重点 施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実 績	成果と課題	
信 頼 に 満 ち た 安 心 ・ 安 全 な 学 校 づ く り	<p>■主要施策10 学校サポート体制の充実</p> <p>○全ての児童生徒が等しく安全に学べる教育環境を創ります。</p>	<p>(1) 学校支援員等配置事業</p> <p>・各学校の要支援児童生徒の実情に応じて、全学校に各1名以上かつ児童生徒100人に1名の学習支援員または教育サポーターの配置を目指し、全ての児童生徒の学業や生活を支援します。</p> <p>・学習支援員等の研修会を企画し、情報交流や指導法の交流を行い、支援技能を高めます。</p>	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・主任学習支援員 1名 ・学習支援員 12名 ・読書指導員 8名 ・教育サポーター 10名 ・学習指導に関わる支援員、サポーターを各学校1～2名配置した。 ・読書指導員を全ての学校に配置した。 ・教育センターに主任学習支援員を配置し、指導方法等の研修を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○要支援児童生徒が増加している実態に応じ、複数の児童生徒に学習支援員が寄り添い、それぞれの児童生徒の実態に即したきめ細かな指導ができた。 ○主任学習支援員による支援の仕方等の研修会や学校訪問指導を行い、学習支援員の指導力を高めていった。 ○複式学級のある小学校に複数配置できた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有効な支援の在り方の研修を推進し、さらに学習支援員の資質向上や支援体制の強化を図る。 	A

重点 施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策10 学校サポート体制の充実</p> <p>○全ての児童生徒が等しく安全に学べる教育環境を創ります。</p>	<p>(2) 教育・生活相談員配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒数の出現率の減少を目指し、教育相談員を配置し、各学校との連携体制を整備します。 ・児童生徒の実態に応じた学校、家庭、関係機関等の連携と相談活動が有効に働くようにするため、生活相談員の職務内容等について見直します。 ・教育・生活相談員の実践等を通して、学校の教職員の教育・生活相談にかかわる資質・能力の向上を図ります。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・主任教育相談員 1名 ・教育相談員 3名 ・学校の実態に応じて教育相談員を派遣（高富中2名、美山中に1名配置）した。 生活相談員 4名 ・電話相談、コスモス教室における指導、学校訪問による指導を実施した。 ・教育センターに主任教育相談員を配置し、ケース会議、適切な支援のあり方等の研修を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校との情報交流を密にし、学校、保護者、諸関係機関と指導方法を共通理解して、不登校の早期解決・減少を図ることができた。 ○毎月の研修会で、市内の児童生徒の状況と今後の方向を話し合い、積極的な相談体制を進めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●センター機能を充実するとともに、教職員の教育相談にかかわる資質向上を図る。 ●不登校児童生徒数のさらなる減少のために、教職員を対象とした学校環境適応尺度（アセス）等研修を開催し、教職員及び相談員の資質向上を図る必要がある。また、幼保・小・中・高と支援が継続していく体制を整えていく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(1) あんしんネットによる登下校等安全対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の安全な登下校のために、学校関係者への登録を積極的に進めます。 児童生徒の安全確保のために、教育委員会から一斉に「不審者情報」や「災害情報」を各小・中学校・保育園及び保護者、地域ボランティアの携帯電話・パソコンに配信します。 各小・中学校から「配信元の学校単位」機能を使って、学校行事や緊急の連絡等、教職員や保護者に必要な情報を配信できるよう啓発します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話メールを利用した安心ネットに全保護者の98%が登録し、不審者情報や、学校の行事連絡等に積極的に利用した。 使用頻度は、学校からの配信において、平成26年度は675件、平成27年度は529件であった。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内の不審情報や警報発令時の対応状況等を素早く周知できた。 ○学級の連絡網を用いた電話連絡に比べ、スピードや正確さが増した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●配信する際の操作方法を全職員が理解し操作できるようにし、緊急の場合に備える。 ●未達者への対応を確実にし、100%受信確認できるようにしていく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(2) 生徒指導連携強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区別で幼保・小・中連携協議会を開催するとともに、市全体で情報交流や課題等の実践的な検討を行う場として『山県市生徒指導情報交流会』を位置づけます。 ・生徒指導連携強化委員会研修会（関係施設見学・講演等）を年1回開催し、生徒指導についての最新の知識や指導法を学びます。 ・小中高研究部会を年3回開催し、9小学校と3中学校と高等学校の生徒の様子について交流し、課題を明確にして生徒指導の方向性を検討します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・年9回生徒指導連携強化委員会を開催し、各学校、各機関との連携を図った。 ・研修会では8月26日に岐阜市子ども若者総合支援センターを訪問した。 ・中高研究部会では、各校1回ずつ授業参観を行い、その後、生徒指導交流を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の情報交流をすることで、市内の生徒指導について共通理解することができた。 ○青少年育成推進員など地域の方々と情報交流を図る場を位置付けることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中高の授業参観だけでなく、生徒指導問題の低年齢化もあることから、小学校の授業参観も行っていく。 ●校種間（小学校、中学校及び高等学校の縦の交流）や、学校間の情報交流の場をより多く持ち、校種間の連携をさらに進めていく。 ●幼保・小・中・高と途切れのない支援を継続していく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(3) いじめ防止対策推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校のいじめの実情に応じて、具体的な取組や対応、評価について検討し、いじめ基本方針の見直しや改善をします。 校内のいじめ未然防止対策委員会の体制の整備や保護者や関係機関の連携を強化します。 具体的ないじめ事案について全教職員が研修し、積極的な生徒指導力を培うとともに共通理解・共通行動を図ります。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会等において積極的にいじめ基本方針を周知するとともに、年度末の策定委員会等において見直しや改善を図った。 いじめ未然防止対策委員会を定期的に行い、実態把握を行った。 スクールカウンセラー等を活用した研修を各校において行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ未然防止対策委員会が定着し、職員の共通理解・共通行動を進めるための中核として機能している。 ○二者懇談を行うなど、児童生徒の実態把握に努めたり、アンケート調査を定期的に行ったりするなど、未然防止の取り組みを積極的に行うことができた。 ○あたたかい人間関係づくりの教育が進められた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いじめの認知件数は26年度の35件から27年度は23件に減ったものの、まだ多くの事案があり、未然防止に向けた取組について、さらに実践していく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進</p> <p>○家族ぐるみの楽しい家庭教育の在り方を啓発します。</p>	<p>(1) 家族ぐるみの子育て実践事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての保育園・小・中学校において家庭教育学級を開設し、参加者を積極的に募ります。 ・家庭教育学級を保護者の学習の場、保護者同士の交流の場として位置づけ年間計画を立て計画的に開催します。 ・福祉課主管の子育てネットワーク協議会と情報交換等を行います。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級 保育園・・・7園 (平均3.4回) 小中学校・・・12校 (平均6.5回) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じた保護者の在り方を知るなどの学びの場を設定することができた。 ○親子のふれあいだけでなく、保護者同士が子育ての悩み等を交流する場となり、ネットワークづくりができた。 ○在宅取り組み型を取り入れるなど、年間を通じての活動が増えてきている。 ○講演のみや体験のみで終わらず、講演と実技を組み合わせることで、内容を充実させ、参加者増加を促すことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育学級の内容・日程を工夫し、参加者をさらに増やせるような工夫をする必要がある。 ●家庭教育学級や講座を開設するだけでなく、父親や祖父母も参加できる講座の開講や、企業が企画する講座を取り入れるなど、講座内容にも工夫をもたせる必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進</p> <p>○家族ぐるみの楽しい家庭教育の在り方を啓発します。</p>	<p>(2) 放課後子ども総合プラン推進事業</p> <p>・やまがた子ども文化クラブによる放課後子ども教室を継続します。また福祉課と教育委員会が連携し、放課後子ども総合プラン事業の推進を図ります。</p> <p>◎10月より、伊自良南小学校で、放課後児童クラブを開設することに伴い、当事業と連携した放課後子ども教室の在り方を検討し、実施につなげるため、学校教育課と調整を行います。</p>	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・やまがた子ども文化クラブによる放課後子ども教室 ・土曜教室…9公民館(39講座・10特別講座) 延べ参加人2,904人 ・放課後教室…2校(7回) 延べ参加人数320人 ・親子ふれあいフェスタ…2公民館(18講座) 延べ参加人数142人 	<p>《成果》</p> <p>[土曜教室]</p> <p>○子どもたちの安全安心な放課後の居場所(活動拠点)づくりができた。</p> <p>○さまざまな体験を通して、異年齢及び世代間のふれあいや地域社会とのつながり・交流ができた。</p> <p>○指導者等にとっては、「地域の子どもは地域で育てる」連帯感のあるまちづくりへの参画や学んだことを生かす喜びの場ができた。</p> <p>[放課後子ども総合プラン]</p> <p>○放課後子ども総合プランによる、伊自良南小学校の放課後子ども教室については、学校教育課との調整を図り、平成28年度から実施する準備ができた。</p> <p>《課題》</p> <p>●放課後子ども総合プランにおける子ども教室を推進するにあたり、子ども文化クラブとの調整や放課後児童クラブ(福祉課)との連携のあり方の検討や、指導者・コーディネーター等の人材確保と実施体制の確立を図る必要がある。</p>	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	■主要施策13 青少年健全育成の推進 ○地域と家庭・学校が一体となって青少年を育てる体制を整備します。	(1) 青少年健全育成事業 ・地域住民、学校、関係機関・団体との連携強化による青少年の健全育成運動を積極的に推進します。 ・心豊かな明るい家庭づくりを推進します。 ・青少年の健全な団体活動、社会参加活動を促進します。 ・青少年の健全な社会環境づくりといじめや非行の防止に努めます。	生涯学習課	山県市青少年育成市民会議が開催した主な事業 ・総会 ・少年の主張大会 ・青少年育成推進大会 ・青少年の非行被害防止全国強調月間に伴う街頭啓発 ・各小学校区青少年育成市民会議に補助金を交付し、地域の青少年健全育成活動の促進	≪成果≫ ○青少年の現状と課題について、関係機関と情報共有し、連携強化に努めた。 ○青少年と地域が交流活動を通し、相互理解を深めることができた。 ≪課題≫ ●青少年健全育成活動の充実度に地域格差がある。 ●事業計画の段階から小中学生を参画させ、自ら考え行動できる機会を設ける。	B
		(2) 成人式開催事業 ・実施する年度中に20歳を迎える人をお祝いするため、市としての式典及び実行委員会による記念パーティーを行います。 ・広報やまがた等を活用して、実行委員会委員の募集を行います。 ・厳粛なうちにも新成人が親近感をもつよう、今後も実行委員によるパーティーを企画します。	生涯学習課	成人式の内容 ・記念式典 ・記念写真撮影 ・記念パーティー（中学校恩師との歓談） ≪参加者≫ ・対象者：333人 市内在籍(外国人含む。) ・出席者：264人 ・出席率：79.3%	≪成果≫ ○成人となった自覚と、責任ある行動を取ることに対する意識を高めることができた。 ≪課題≫ ●成人式実行委員の確保が必要である。	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進</p> <p>○だれもが自主的に学ぶ生涯学習のまちづくりのための環境を整備します。</p>	<p>(1)生涯学習関係団体育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体が自主的に運営や活動ができるよう指導・助言体制を整備します。 各団体・各会員の学習意欲を満たすことができる適切な指導者を紹介できるよう支援体制を強化します。 該当団体と行政や他団体がスムーズに連携できるよう助言します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会育成協議会の映画鑑賞会や、PTA連合会の研究大会、発表会等の指導・助言を行い、事業が円滑に実施できた。 11月に青少年育成市民会議とPTAとの合同研修会が開催できた。 県や地区組織等の上部組織へ積極的に参加し、連携、研鑽、親睦を図ることができた。 	<p>《成果》</p> <p>○子ども会、PTA等の活動が円滑に行うことができ、会の発展と会員相互の理解、親睦が図れた。研修を通じて自己研鑽ができた。また、県等の上部組織との連携等も図ることができた。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各団体の活動内容の積極的なPRを行うとともに、事業内容の見直しも含めた検討を行う必要がある。 ●青少年育成市民会議とPTAとの合同研修会の参加を促進する必要がある。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進</p> <p>○だれもが自主的に学ぶ生涯学習のまちづくりのための環境を整備します。</p>	<p>(2) 公民館活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化創造・地域づくりのために、住民と対話しながら充実した公民館講座の開設を図ります。 サークル活動が充実できるよう支援を継続します。 公民館長・主事のスキルアップをめざす研修会を実施します。 美山中央公民館(ホール)は、多くの研究大会、講演会、芸能発表会などが開催されるため、音響・照明の設備の充実を図ります。 地区公民館トイレの洋式化改修を、順次整備します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座を開設し、文化と教養を高めた。 自主活動としてサークルが余暇を利用して活動した。 公民館ごとに地域住民や利用団体と共に学習発表会、地域づくりの盆踊り大会や、山登り・鱒のつかみどりなどを実施した。 職員資質向上と公民館相互理解のため各種研修会への参加と、館長・主事会及び中央公民館運営審議会・地区公民館運営委員会(協議会)を開催し公民館運営の円滑化を図った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用団体等が自己研鑽と仲間作りのため、余暇時間を活用した。また、学んだことを地域交流に役立て、地域リーダーとして活動した。 ○中央公民館運営審議会・地区公民館運営委員会(協議会)を開催することにより公民館の運営が円滑に行えた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域住民のニーズに即した講座、研修会の開催を検討する。 ●過疎、高齢化に対しての公民館の在り方を検討する。 ●社会教育主事等の資格の取得を計画的に進める必要がある。 ●全ての公民館で、防災問題に焦点をあて、自治会等と連携し防災訓練につなげていくことなどを検討していく必要がある。 ●地域の実情に応じた公民館のあり方、評価を考えていく必要がある。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	■主要施策15 生涯スポーツの推進 ○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。	(1) 健康スポーツ推進事業 ・市民の一層の健康増進を図る為と、少年スポーツの推進の為、社会体育施設及び学校開放施設を無料で使用してもらい、健康寿命の増進・体育施設の有効利用を図ります。 ・近年の高齢化社会に対応した健康づくりの面からも、レクリエーション的な運動プログラムの実践を図ります。体育協会や体育振興会との連携を強化します。	生涯学習課	・体育施設無料化により市民の健康寿命の延伸を図ることができた。 ・健康増進・維持を図るため市主催によるラジオ体操・みんなの体操会を各スポーツ団体と協働し市内9会場で開催し、多くの参加者を得られることができた。	≪成果≫ ○社会体育施設及び学校開放施設の無料化により運動への関心と交流が図られ、利用者が増加した。 ≪課題≫ ●市民の健康寿命延伸のため、各種スポーツイベントやレクリエーション行事への参加者を増やしていく必要がある。	B
		(2) 全国大会等出場応援事業 ・全国大会等出場応援金事業について、幅広く市民の方に周知徹底を図るとともに、出場選手についても、広報等に掲載していきます。	生涯学習課	【発行枚数】 4,300枚 【申請者数】 99団体 内訳：スポーツ系 96団体 文化系 3団体	≪成果≫ ○広報等に掲載したことで、1年を通じ多くの申請があり、一定の周知ができた。 ≪課題≫ ●国際大会への出場者が近年増えており、予算を大幅に超過することがあるため、状況に応じ要綱を見直していく必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(3) 体育施設管理・建設事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設や学校開放施設のさらなる積極的活用を推進します。 ・体育施設の老朽化及び体育施設の多目的利用の必要性から（仮称）山県市多目的体育館建設を推進します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設及び学校開放施設の計画的な貸し出しができた。 ・インターネットを利用した体育施設予約管理システムの利用を促進した。 ・6月に利用者による体育施設の清掃ボランティア活動を実施し、当該年度から社会体育施設は指定管理者が、学校開放施設は教育委員会主催で実施することができた。 	<p>《成果》</p> <p>○施設の無料化により利用者が増加し、スポーツを通じた交流、体育振興に貢献できた。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用者のマナーの悪さが目立ち、学校側からの報告が増加。チラシや総会での呼びかけ等、マナー向上に向けた取組を一層充実する必要がある。 ●施設の老朽化により今後、修繕修理の経費が増大することが見込まれるため、計画的な改修計画が必要である。 	B
		<p>(4) 体育施設指定管理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TSCを指定管理者として、利用者のサービス向上に努めるため、定期的に管理・運営状況を把握し、指定管理事業が適切に執行されるよう努めます。 ・指定管理施設の修理・修繕等、TSCと連携して、使いやすい環境整備・運営に努めます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、市総合体育館をはじめとする市内社会体育施設について、TSCを指定管理者とし、施設の維持管理を委託した。 ・管理運営状況を把握するため、月1回の合同会議を設け施設の利用状況及び修理・修繕等の情報を共有することができた。 	<p>《成果》</p> <p>○指定管理者制度によりサービスの向上が図られ、利用者が増加した。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者制度の下、他団体と連携協働し、より効果的な施設管理のサービスを検討する。 ●施設や設備について、省エネ等のより経費を抑制できる設備を、指定管理者と協議し充実させていく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(5) スポーツ関係団体育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市スポーツ推進委員会を中心に、市スポーツイベントの企画・運営、さらに地域におけるスポーツ振興等の指導助言を充実します。 近年の高齢者社会に対応した健康づくりの面からも、体育協会や体育振興会との連携を強化します。 市民が希望するスポーツ活動に積極的に参加できる環境を整備し、誰もが『気軽に実践できる運動プログラム』の実践を図ります。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 体育協会による市民スポーツ大会、ジョギング大会及びウォーキング大会を開催した。 各地区体育振興会による市民運動会を開催した。 市主催による各種スポーツ大会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフ大会 9月開催 地区代表32チーム ソフトバレー大会 11月開催 地区代表31チーム 市民の地域行事等への参加を促し、健康・体力づくり、まちづくりに努めた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ人口の拡大と、健康増進及び市民相互のコミュニケーションが図られた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民のニーズに合ったスポーツイベントや、スポーツレクリエーション大会等を開催できるよう検討する。 ●各団体の連携について、情報交換を密にするなどさらに強化する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(6) 総合型地域スポーツクラブ 育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生スクール(11種目)、中学生スクール(14種目)、スポーツ広場(9種目)の充実をはかり、その他四季にあったクラブイベントを実施します。 ・年3回(前期・中期・後期)に分けて、成人、中学生、小学生の3階層ごとに開催するスポーツ教室を充実させます。 ・伊自良地域や美山地域でも活動できるように環境を整備します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・会員……………1,187名 ・登録指導者………113名 ・スクール事業 (小)10種目 (中)14種目 延べ27,195人参加 ・スポーツ広場事業 9種目 延べ 11,100人参加 ・スポーツ教室事業 20講座 延べ2,353人参加 ・スポーツイベント事業 7事業 延べ1,188人参加 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なニーズに対応した魅力ある事業を展開し、スポーツ振興や多世代による交流を推進した。 ○クラブ指導者と部活動顧問が連携し中学校へ指導者を派遣することが出来た。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指導者の確保・養成及び市民のニーズに合った事業を展開していく。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進</p> <p>○施設を最大限に活用し、市民のニーズに合わせた活動を推進します。</p>	<p>(1) 文化の里花咲きホール活用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から高齢者まで幅広い年代を対象に、多様で質の高い芸術文化の鑑賞機会を提供します。 ・小・中学校をはじめ保育園や地域へアーティストを派遣するアウトリーチ事業を積極的に展開し、子どもたちを中心に多くの市民に芸術文化への理解、関心を促すとともに、ホール公演の集客に繋げていきます。 ・市民参加型事業の充実を図るとともに、市民が主体となり活動する芸術文化団体等の支援を行います。 ・ボランティア組織を充実し、ホールの円滑な事業推進を図ります。 ・舞台芸術振興会の育成、活性化を図ります。 	生涯学習課	<p>幅広い年代を対象とした鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳からシリーズ 3回 ・和太鼓・クラシック (1回 宝くじ文化公演) <p>学校等アウトリーチ (参加者：保育園2園・小学校8校・中学校2校・高富児童館等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓 ・クラシック (2回) 等 <p>市民参加・体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル演劇制作、公演 ・第九合唱 ・音楽とダンス <p>ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月一回の定例会議の開催、 ・公演事業の企画・運営 <p>舞台芸術振興会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金の交付(200千円) ・舞台芸術振興会主催事業の開催 (山県市市民音楽祭) 	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アウトリーチと連動した児童生徒への鑑賞機会の提供、また、父母と乳幼児と一緒に鑑賞できるよう引き続き0歳シリーズを実施し、幅広い年齢層の方に多ジャンルの質の高い公演が開催できたことにより、好評を得ることができた。 ○学校の他、新たに保育園でも事業を実施し、市内の園児や児童生徒に対して、質の高い芸術が体感できる機会を提供できた。 ○花咲きコンサート及びオリジナル演劇には公募により多くの市民が参加、音楽とダンスのコラボレーション公演では、ダンスワークショップの参加者も公演に出演。その結果、創り上げる喜び、一体感、達成感を味わってもらうことができた。 ○定例会議を開催し、ボランティア組織と共通認識のもと事業を実施することができた。また、花咲きコンサートでは、積極的な企画・実施が行えた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理的な要因から集客に難があるが、工夫を凝らした魅力ある事業の推進や市民の芸術活動を支援すると共に、イベント及び施設案内等の周知を積極的に行い更なる集客・利用率の向上を図る必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進</p> <p>○施設を最大限に活用し、市民のニーズに合わせた活動を推進します。</p>	<p>(2) 古田紹欽記念館活用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化や地域文化（偉人の顕彰等含む）、禅（哲学）に関わる特別展を開催し、市及び館の魅力を情報発信します。 ・市民茶会や講演会・コンサート、ものづくり講座等イベントを開催し、新規来館者の開拓や集客に努めます。 ・茶道ボランティア組織を充実し、ボランティア主体による市民茶会等積極的な活用を図ります。 ・図書館情報システム等の導入により、貴重な蔵書の公開を積極的に進めます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等で日本文化、地域文化のPRを行った。 ・日本文化の体感や館への集客を図るため、通常時の抹茶体験をはじめ市民茶会と好日会イベント、子ども茶道教室生による七夕さらさら会、ものづくり講座、雑学講座等を実施した。 ・庭園の新たな活用を図るためスペシャルイベント「竹の灯 月見茶会&ジャズコンサート」を開催。1日限りではあったが、庭園をライトアップし夜の幻想的な庭園をPRした。 ・茶道ボランティアの活動として各イベントへの協力のほか、月1回ボランティア交流会を開催した。 ・館内展示では、古田氏の心の世界をはじめ、幅広い交流関係などを紹介した展示や、ミニコーナーでは郷土の偉人「早矢仕有的」「棚橋絢子」などを展示。 	<p>《成果》</p> <p>○展示、抹茶体験、市民茶会、講座などとおして、日本文化や地域文化の素晴らしさを発信するとともに来館者に心の安らぎ、思索の場を提供することができた。また、1日限りのスペシャルイベント「竹の灯 月見茶会&ジャズコンサート」では、普段見ることのできない夜の庭園を開放し、月明かりの下茶会を行い、普段とは違った古田紹欽記念館をPRすることができた。また新たな郷土の偉人「高折周一・寿美子夫妻」を顕彰。特別展に向けて資料収集や調査研究を行った。</p> <p>《課題》</p> <p>●古田紹欽記念館の周知は十分といえない状況にあることから、今後も特別展示や様々なイベントを通して館のPRに努めていく必要がある。また、全国に情報を発信していくため古田氏や鈴木大拙の研究の拠点である松ヶ岡文庫や鈴木大拙館など外部団体と連携を図るとともに、館の蔵書公開に向けた取組みを進める必要がある。</p>	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策17 市民の読書活動の推進</p> <p>○子どもから大人まで、読書に親しむ環境を整備します。</p>	<p>(1) 図書館運営の拡充事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新刊図書の購入、寄贈、他館との相互貸借により、図書貸出しサービスの充実を図ります。 ・子どもの読書活動推進計画で計画されているように、小・中学校と連携を密にし、図書館・学校・地域が一体となって、子どもの読書向上につながる活動の推進を図ります。 ・美術館・歴史民俗資料館を併設する複合施設の利点を活かし、様々なイベント等を開催し、学習の場、憩い場として相互利用を促進します。 ・調べ学習や読書等の利用者が長時間滞在できるよう、魅力ある施設的环境づくりを進めます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊図書の購入、寄贈、相互貸借等の貸出サービスの充実 新刊購入 3,509冊 図書寄贈 一般・コミック 374冊 雑誌 284冊 (出版社・スポンサー含む) 相互貸借 借受 480冊 貸出 114冊 ・図書館情報システム入替 ・図書資料返却窓口の拡充 ・「読書通帳」を作成し読書離れを講じる対策として、市内小中学校の児童生徒に配布、図書館の窓口に設置するとともに広報紙やホームページでPRを行った。 ・みやまジョイフルクラブで民俗資料を活用した昔の遊び体験イベントを実施した。 ・夏期期間に開館時間を1時間延長し午後6時まで開館した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新刊の定期的な購入及びリクエスト資料の購入並びに他館との相互貸借を積極的に行い利用者ニーズに応じたサービスを提供することができた。 ○図書館情報システムをみやまジョイフル倶楽部と古田紹欽記念館に新たに導入したことにより、山県市が保有している約11万冊の図書資料がデータ管理でき、ホームページから検索できるようになった。また、貸出・返却・予約(スマートホンから予約可能)等の窓口対応が迅速になり利用者サービスの向上を図ることができた。 ○図書資料(AV除く)の返却を借りた所以外の窓口・夜間ポストへ返却できるように拡充したことにより利用者から好評を得ることができた。 ○民俗資料を活用したイベント開催により世代間交流を図ることができ、参加者から好評を得ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●魅力ある図書館運営を目指し、アンケート結果を基に、更なる利用者サービスの向上に努める必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策17 市民の読書活動の推進</p> <p>○子どもから大人まで、読書に親しむ環境を整備します。</p>	<p>(2) 読み聞かせ教室の開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納涼読み聞かせ等の創意工夫を凝らした読み聞かせの取組を行います。 ・ものづくりやお遊びを取り入れた親子で楽しめる読み聞かせ講座を実施します。 ・家庭での読み聞かせを推進するため、絵本を充実するとともに展示等を通して貸出利用を促進します。 ・読み聞かせイベント開催等の広報活動を充実します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアの協力のもと絵本等の読み聞かせを実施 本館 45回実施 394人 みやまジョイフル倶楽部 7回実施 65人 げんきはうす 9回 ・民俗資料展示室をお化け屋敷に見立て納涼読み聞かせ会を開催した。 ・講談社の「全国訪問おはなし隊」を招き、読み聞かせイベントを開催した。 ・絵本の楽しさを知ってもらうため、リズムに合わせた読み聞かせやちぎり絵づくり体験の講座を開催した。 ・親子読書室等におすすめの絵本を展示するとともに、親しみやすい環境づくりに心がけ、職員が工夫をこらし部屋の飾り付け等を毎月実施した。 ・イベントの開催を広報紙やホームページでPRした。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「全国訪問おはなし隊」を招き、読み聞かせイベントと読書ボランティア研修を開催したことにより、今後の活動に向けスキルアップを図ることができた。 ○親子で楽しめる講座（・リズムに合わせて体全体を使った読み聞かせ・英語の絵本の読み聞かせ・絵本にあわせてちぎり絵づくり）を開催し、絵本の楽しさや読み聞かせの大切さを知ってもらうことができ、また、図書館への関心を促すことができた。 ○おすすめの絵本の展示や親しみやすい環境づくりとして親子読書室等の飾り付けを毎月変更することより、利用者の増加につなげることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども読書活動推進計画を推進するため、更なる読み聞かせ事業の充実を図る必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策18 文化財や伝統芸能等の継承推進</p> <p>○市民のかけがえのない財産を学び、次世代に継承します。</p>	<p>(1) 文化財保存事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査・研究の推進や、市民への文化財情報の積極的な提供に努めます。 地域の伝統芸能や伝統行事の継承と振興を図るために、文化財保存団体が行う後継者育成や公開の充実にに向けた取組を支援します。 文化財を活用した教育普及活動の充実を図ります。 伝統芸能をまとめた保存版の冊子を作成します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用事業(重要無形民俗文化財舞台公演事業)の実施し際し、実行委員会に補助金を交付するとともに、指導・助言を行った。(来場者数200名) 文化財保存活用事業(民俗文化財調査研究・普及事業)の実施に際し、実行委員会に補助金を交付するとともに、指導・助言を行った。(来場者数200名) 指定重要文化財「白山神社拝殿」防災設備管理事業に対し補助金を交付した。 市重要無形民俗文化財等の保存団体の保護継承活動に対し補助金を交付した。 民俗資料活用事業(餅つきと昔遊び)を実施した。(120名が参加) 開発事業に伴う試掘調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地内での遺跡の範囲内容確認を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護・保存団体の活動の活性化を促進し、地域文化の保護継承の一助となった。 ○市民ボランティア協力の下、民俗資料を活用した企画事業を実施し、市民への周知を図った。 ○文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の範囲内容を確認し、適正な対応を行った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史民俗資料館の展示内容の充実を図る。 ●民俗資料等の活用にも力を入れる必要がある。 	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	■主要施策19 国際理解教育の推進 ○多文化共生社会を目指し、国際感覚を磨きます。	(1) 青少年の海外派遣事業 ・アメリカ合衆国オレゴン州フローレンス市との友好都市提携に基づき、青少年を対象にした5泊7日のホームステイ研修を継続します。	生涯学習課	・フローレンス市へ高校生4名、大学生2名、ホストファミリー代表1名、国際交流員1名を派遣し、交流を行った。	≪成果≫ ○フローレンス市との交流を図ることができた。 ○青少年が現地の人々や異文化に触れることができた。 ≪課題≫ ●フローレンス市との友好協定に基づいた国際交流事業の見直し、新たな海外派遣相手国を視野に入れた派遣事業の見直しを図る必要がある。	B
		(2) 国際交流員受入事業 ・市内小中学校での英語指導助手や、各中央公民館での英会話講座等の交流を行います。	生涯学習課	・市内小中学校で英語指導助手としての活動を行ったほか、各中央公民館で大人向けの英会話講座を開講した。	≪成果≫ ○英会話を通して異文化交流を行い、相互理解を深める事ができた。 ≪課題≫ ●フローレンス市内在住で、国際交流員にふさわしい資格（ディグリー）のある人物がなく、国際交流員のあり方を見直す必要がある。	B

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	<p>■主要施策20 学校における人権教育の推進</p> <p>○全教育活動を通し、人権尊重の精神がみなぎる学校をつくりまします。</p>	<p>(1) 学校人権教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動で、道徳・人権問題を含めた『心にひびく教育』を推進します。 ・同和問題・人権問題に関する研修や広報活動を充実します。 ・「ひびきあいの日」事業を実施し、学校・保護者・地域の方々とともに地域ぐるみの人権教育に努めます。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研修会を年間3回実施した。 ・市内教職員を対象とした人権講演会を開き、人権同和問題に関する研修を充実させることができた。 演題「新ちゃんのお笑い人権講座 ～笑顔で暮らす、願いに生きる～」 講師 露の新治 氏 ・各学校の人権教育の取組や成果や課題をまとめた冊子を製作することができた。 ・全学校が「ひびきあいの日」を実施し、地域、学校、家庭が一体となった人権教育の推進に努めた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感の推進を重点として取り組み、各校の取り組みを交流するとともに、各校の取り組みに生かすことができた ○授業公開を行ったり、各学校行事等の活動を地域に向かって発信したりすることで、地域と共に児童生徒の健全育成に努めることができた。 ○講演会を通して「不当な分け隔て」について考え、人権感覚を磨くことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域住民と一体になった活動の一層の充実を図る。 	A

会

重点施策	重点目標	平成27年度の目標	担当課	平成27年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	<p>■主要施策21 あらゆる場、あらゆる機会での人権教育の推進</p> <p>○学習機会を充実させ、人権学習を推進します。</p>	<p>(1) 社会人権教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山県市社会人権教育推進協議会を開催し、今日的課題に対応した人権教育の充実に努めます。 ・公民館等の各種学級や講座、各種団体と連携した講演会、家庭教育学級での人権学習会、人権教育資料の作成等の学習機会を拡大します。 ・隣保館で講座を実施し、地域住民と周辺地域住民の交流促進を図り、人権同和教育を進めていきます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象に露の新治氏による「笑顔でくらす、願いに生きる」と題した人権講演会を開催した。(参加者200名) ・PTA家庭教育学級講座の中で人権教育を実施。 ・美里会館で、地域の小学生を対象にした習字教室を開催した。 ・標語入り啓発物品を作成した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育学級、講演会などで、人権問題についての学習機会を提供し、正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図ることができた。 ○美里会館での習字教室を実施し、地域住民と子どもたちの積極的な交流を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物品の配布以外の有効な啓発方法を工夫する必要がある。 ●各種団体や企業への働きかけ等、啓発方法を工夫する必要がある。 	B

第3章 点検評価委員会の意見（平成27年度の評価）

（1）点検評価委員からの意見（要約）

昨年度の山県市教育委員会点検評価委員会において示された意見の概要は、次のとおりです。

主要施策 1(2)	個別指導及び問題解決学習等授業改善事業
	<ul style="list-style-type: none">・学力向上推進教師を置くことにより、各学校の実情に合わせた学力向上の取組が積極的に行われ、具体的な取組ができたと考える。・複式学級、単学級の多い学校では、今後教科担任制に向けて具体的に考えていく必要がある。・授業でコラボ活動を活用したり、児童の努力を賞賛するために活用することも考慮していけるとよい。・コース別学習等を有効利用する授業は、どの程度理解できたかを確認できるとよい。

主要施策 1(4)	教職員の各種人事交流による学校活性化事業
	<ul style="list-style-type: none">・中学校と高校の教員交流を更に活発にさせていけるとよい。

主要施策 2(2)	ふるさと大好き、わくわく体験事業
	<ul style="list-style-type: none">・自然豊かな山県市の施設を利用し、様々な体験ができたこと、またその活動を支える人々との触れ合いは、豊かな心を育むことにつながると考える。・山県市での川遊び体験をすることにより、水の楽しさ、危険を体験することも重要と考える。

主要施策 2(3)	地域とともにある学校の推進事業
	<ul style="list-style-type: none">・地域の方が農作物の手伝いに訪れたり、神社や歴史について教えたり、地域とともにある学校になってきているので、今後も続けてほしい。・学校と地域住民を結ぶ学校コラボ事業が、重要だという認識をもつことができるようになったことは非常によい。・幼保・小・中・高の一層の交流や連携を進めていけるとよい。

主要施策 4(1)	力のある教師や支援員等を育てる教職員研修推進事業
	<ul style="list-style-type: none">・「力のある教師」を育てる教職員研修推進事業が多様に計画され、指導力のある教職員が育っているのは、頼もしい。

主要施策 4(3)	教育相談機能の充実事業(適応指導教室コスモス)
<ul style="list-style-type: none"> ・発達に関する様々な兆候について、乳幼児期から早期に発見・支援していく体制を検討・整備していく必要がある。 	
主要施策 7(1)	冷暖房設備整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・必要性について、現場等の状況を具体的に把握し、設置に向けて調査研究していく必要がある。 	
主要施策 7(2)	トイレ美化推進事業
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での美化指導につながり、児童生徒の心を育むことにもつながっている。 	
主要施策 8(1)	「学習・情報センター機能をもつ図書館経営」推進事業
<ul style="list-style-type: none"> ・読書指導員の研修が、子どもたちへの読書に対する意識を高める環境づくりに役立ち、読書指導が積極的に行われています。貸し出し等の利便等に対するバーコード化については、有用性を明確にし、慎重に取り組んでいく必要がある。 	
主要施策 9(2)	地産地消と食育推進事業
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとのものを積極的に取り入れているのが伝わり、また、家庭で行うべきマナーや食育を、学校教育が率先して行っていると考える。 ・地産地消についての考え方を、具体的にする必要はある。 ・産業課等と連携を密にし、年間を通して確保できるよう検討していく必要がある。 	
主要施策 10(2)	教育・生活相談員配置事業
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進教師を置くことにより、各学校の実情に合わせた学力向上の取組が積極的に行われ、具体的な取組ができたと考える。 ・複式学級、単学級の多い学校では、今後教科担任制に向けて具体的に考えていく必要がある。 ・要支援児童・生徒について、幼保・小・中・高と途切れのない支援が継続していけるような体制を整備していく必要がある。 	

主要施策 11(1)	あんしんネットによる登下校等安全対策事業
<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんネットが小中学校の保護者へ十分浸透しており、その活用による効果は大きいので、今後につなげてほしい。 	
主要施策 11(3)	いじめ防止対策推進事業
<ul style="list-style-type: none"> ・「言われてうれしい言葉」である「あたたかい人間関係づくり」の教育ができたと考ええる。 	
主要施策 12(1)	家族ぐるみの子育て実践事業
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においても子育て支援教育や祖父母ふれあい活動等を積極的に取り入れている。 ・家庭教育の充実は極めて重要なため、子育てにおける様々な講座を設けることが必要と考える。 	
主要施策 13(1)	青少年健全育成事業
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、豊かな実践ができるような場を設定し、その上で自らの考えを主張できるように、取り組むことが今後につながると考える。 	
主要施策 12(2)	放課後子ども総合プラン推進事業
<ul style="list-style-type: none"> ・伊自良南小学校の校舎内に放課後児童クラブが開設できたことは、子どもたちの安心安全な居場所ができた等成果は大きい。 	
主要施策 14(2)	公民館活性化事業
<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び生徒が、興味をもてるプログラムを取り入れてほしい。 ・「学び」と「絆づくり」によって「地域づくりを強力に推進する拠点」となるような機能を発揮させてほしい。(例：防災問題をテーマとした講座を開設する等) 	
主要施策 15(3)	体育施設管理・建設事業
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者マナーの改善が必要である。 	
主要施策 19(1)	青少年の海外派遣事業
<ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業の見直しを考慮するとともに、異文化に触れた体験等を市民等に還元するための、事例発表会の開催をしていくことも必要と考える。 	

○山県市教育委員会点検評価実施要綱

平成 21 年 2 月 27 日

教育委員会告示第 7 号

(目的)

第 1 条 この要綱は、山県市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことで、山県市教育行政の推進体制を一層充実させ、教育水準の向上を図り、もって市民の期待に応えるために必要な事項を定めることを目的とする。

(点検評価の実施及び体制)

第 2 条 教育委員会は、前年度の教育委員会の取組みについて、点検評価を行う。

2 教育委員会は、前項の点検評価を適正なものとするため、外部の学識経験者によって構成する山県市教育委員会評価委員会(以下「評価委員会」という。)の意見を聴かなければならない。

(評価事項)

第 3 条 教育委員会は、前年度の取組みについて、次の各号に掲げる内容の点検評価を実施する。

(1) 教育委員会の活動状況 教育委員会会議の実施状況 調査活動の状況等

(2) 事務事業の執行状況 山県市教育振興基本計画に掲げる主要施策の施行状況及びその成果

(3) 前年度の点検評価結果への対応状況 前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価が C 又は D とされた事務事業に対する対応の状況

2 前項の点検評価においては、次の 4 区分により達成度の評価を行う。

A 順調に達成しているもの

B おおむね順調に達成しているもの

C 達成見込みであるが課題があるもの

D 順調でないもの

(点検評価の手順)

第4条 点検評価を実施するに当たっては、事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

2 教育委員会は、第一次評価の結果を基に、第2条第2項に規定する評価委員会の意見を聴いたうえで、教育委員会会議において最終評価を行う。

3 教育委員会は、前項の評価結果を報告書にまとめ、議会に提出する。

4 教育委員会は、前項の報告書を教育委員会のホームページに掲載するほか、広報等を利用し市民に公表する。

(庶務)

第5条 点検評価の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、この要綱を実施するために必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

○山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱

平成 21 年 2 月 27 日

教育委員会告示第 8 号

(設置)

第 1 条 山県市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり、透明性及び客観性を確保するため、山県市教育委員会点検評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 評価委員会は、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告する。

2 山県市教育委員会点検評価実施要綱第 3 条第 1 項各号に定める点検評価は、それぞれ様式第 1 号～第 3 号により行う。

(組織)

第 3 条 評価委員会は、委員 10 人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げるもののうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育学その他教育行政に関する専門知識を有する者
- (2) 学校関係者
- (3) 保護者
- (4) 民間における企業体、団体等の関係者
- (5) その他教育長が適当と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 評価委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

4 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会は、委員長が招集し、その会議の議長を務める。

2 評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて、意見を聴取し、又は必要な資料等の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成28年6月28日教委告示第7号）

この要綱は、公布の日から施行する。

山県市教育委員会点検評価委員

(敬称略)

委員長	岩田 恵司	岐阜大学名誉教授
副委員長	田上 隆	市自治会連合会会長
委員	石神 真	市議会厚生文教委員会委員長
委員	翠 雅司	県立山県高等学校学校長
委員	河野 隆	はなぞの北幼稚園園長
委員	西村 覺良	市社会教育委員代表
委員	早矢 仕輝	市体育協会会長
委員	杉山 純代	市小中学校長会会長 (桜尾小学校)
委員	武藤 潤	市PTA連合会代表 (伊自良北小学校)
委員	上野 里美	市保育園長代表 (梅原保育園)